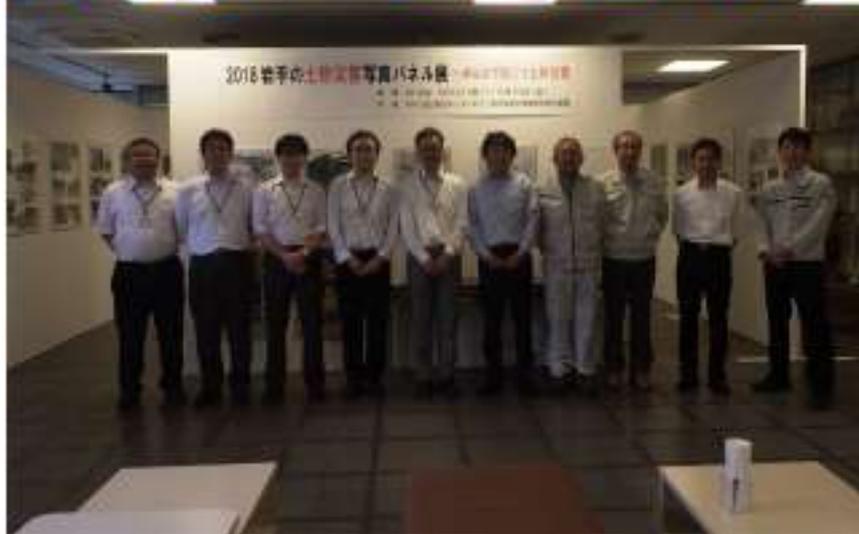


平成 30 年度 活動の記録  
(平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日)

# 自然災害から身を守ろう！



(2018 岩手の土砂災害写真パネル展 準備後の集合写真)

清水寺で発表された 2018 年今年の漢字（日本漢字能力検定協会選定）は「災」でした。まさに、大分県の大規模土砂崩壊（4 月）、大阪府北部地震（6 月）、西日本の記録的大雨（7 月豪雨）、北海道胆振東部地震（9 月）など、土砂災害の多い年でした。

災害の無い年はなく、土砂災害防止に向けた普及啓発活動を更に進めていきます。

特定非営利活動法人 防災ネットいわて

## 業務実施の方針

平成 30 年度は昨年に引き続き、次の方針で事業を実施しました。

- ・ 調査研究、提案、研修活動等を通して、組織活動の活発化を図る。
- ・ 地域の問題解決を図るため、他団体からの受託事業を円滑に実施し、積極的な事業展開を図る。

## 活動概要

本年度の活動は、これまでと同様に委託事業や土砂災害写真パネル展を実施しました。岩手県からの委託事業である土砂災害防止法基礎調査説明会補助業務は、平成 30 年度で 13 年目となり、写真パネル展と共に当 NPO の主要な活動となっています。

写真パネル展は今回も岩手県砂防災害課と共同で開催しました。県内外で発生した土砂災害状況等の写真パネルや小中学生が作成した土砂災害防止啓発ポスター等を展示しました。また、大分県で発生した大規模土砂崩壊現場の空撮映像を写真パネルとモニターで紹介しました。

今年も岩手県や市町村職員をはじめ、多くの方々にご協力いただき、活動を続けることができました。改めて感謝申し上げます。

## 実施した事業および主な活動

### 【2018 岩手の土砂災害写真パネル展】

実施日時：平成 30 年 6 月 1～15 日 9:00～17:00

実施場所：岩手県庁 1 階県民室

写真パネル展は、今年も岩手県県土整備部砂防災害課との共催により土砂災害防止月間である 6 月に開催しました。

今回はこれまでの県内外の土砂災害状況写真の他に、4 月に発生した大分県中津市耶馬溪町の大規模土砂崩落現場の被災状況写真や県内小中学生による土砂災害防止啓発ポスター入選作品など、約 30 枚のパネルを展示しました。

会場正面には、6 名が犠牲になった中津市の土砂崩落現場状況の映像をモニターで上映しました。





**【土砂災害基礎調査説明会住民周知事業】**

岩手県から委託を受けて実施している同事業は 13 年目となりました。土砂災害防止法に基づく基礎調査結果・警戒区域指定に関する説明会の資料配布と、説明会受付、説明補助、議事録の作成および住民の意識調査を行っています。

平成 30 年度中は、花巻土木センター管内の花巻市、大船渡土木センター管内の大船渡市・陸前高田・住田町、県北土木部管内の久慈市・洋野町でそれぞれ業務を実施しました。



花巻土木センター管内（花巻市）



大船渡土木センター管内(大船渡市)



大船渡土木センター管内(陸前高田市)



県北土木部管内(久慈市)

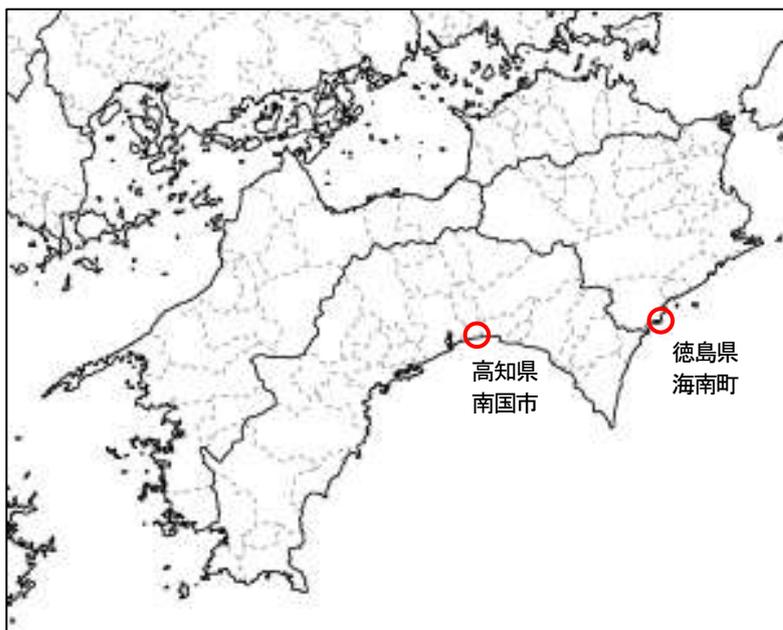


◆ 南海地震による津波への備え (徳島県の石碑・高知県の津波避難タワー)

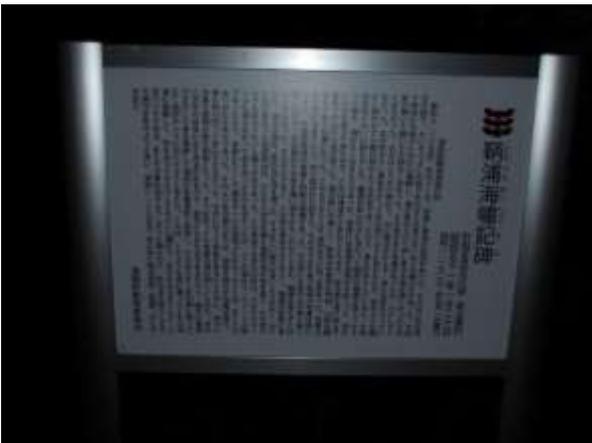
今年の3月で東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の発生から8年経ち、被災建物の取り壊しがほぼ終わり、記憶の風化が懸念されています。三陸沿岸地域には明治や昭和の地震津波記念碑が建てられています。当会の「平成24年度 活動の記録」で少し紹介しましたが、記念碑が沿岸の各所にあるということは東日本大震災まで、あまり知られていなかったのではないのでしょうか。

東北地方と同様に、四国の太平洋沿岸地域も何回も巨大津波の被害にあっています。原因はユーラシアプレートの跳ね上がりで発生する巨大地震によるもので、概ね100年周期といわれています。

四国に行く機会があったので、徳島県内の石碑と高知県内の津波避難タワーを見学してきました。現地の状況を紹介します。



① 徳島県海陽町<sup>ともうら</sup>鞆浦地区 (撮影：2018年12月4日)

	
<p>[鞆浦海嘯記] 町指定有形文化財 安政南海地震のことを彫り込んだ石碑 右隣に現代語での解説文がある</p>	<p>[鞆浦海嘯記碑] 海部郡鞆浦海溢の記 嘉永 7(1854)年 11 月, 地震と津波の変災があつた。・・・昔から百年の前後に必ず津波があるので、後年にもまた必ずあるだろう。・・・</p>
	
<p>[大岩慶長宝永碑] 左手前の面に彫ってある</p>	<p>左：慶長碑 右：宝永碑</p>
	<p>[宝永碑] 宝永 4 年 10 月 4 日 (1707. 10. 28)・・・ たちまち海潮が湧き出ること 3m 余り。とうとうと流れて、高台を浸すこと 3 回くり返して止む。・・・後の世の大地震にあう人は、あらかじめ海潮の変化を考えて、津波を避けるべきである。・・・ [慶長碑]・・・慶長 9 年 12 月 16 日 (1605. 2. 3)・・・ 大海が 3 度鳴って人々は、おおいに驚いたが、逆波がしきりと起った。その高さ 10 丈 (約 30m) で 7 度くる。・・・百余名の男女が千尋の海底に沈んだ。・・・後の世に言い伝えるために之を奉る・・・ ※ 現在四国で判明している地震の最古の碑</p>

残念ながら現地到着が夜になってしまい、多くを見ることはできませんでした。地元の人がどの程度意識しているか気になるところです。

② 高知県南国市前浜地区（撮影：2018年12月4日）

	
<p>[避難誘導標識] 津波避難タワーの場所と距離が示してある。類似形式の標識が各所に設置してある。</p>	<p>[津波避難タワー] 名称：⑬大湊小南タワー 小学校のすぐ南に建てられている。 市職員の駐車場にもなっている。</p>
	
<p>避難スペース(2)：高さ 11.43m, 収容 223 人程度 避難スペース(1)：高さ 8.43m, 収容 139 人程度 想定最大浸水深：5.52m, 地盤高：海拔約 4m</p>	<p>屋上からの風景。 すぐ近くに土佐湾が広がる。 近くの津波避難タワーが見える（矢印）</p>

<p>タワー内に掲示されている防災標語</p>	<p>タワー内に掲示されている防災標語</p>
<p>子供向けの注意書き</p>	<p>敷地内に設置してある救難シェルター 定員：大人4名，子供2名</p>

高知県や徳島県南部の沿岸地域は、南海地震発生時の3～20分後に津波が到達すると予想されています。写真の津波避難タワーは立派ですが、別の自治体では、鉄骨の骨組み程度のタワーもあります。鉄道沿線部では駅や線路などが、町村部の中心地では役所や学校、マンションなどが避難場所に指定されているようです。

地元の有識者に聞くと、幾つかの避難施設は高さが足りないとか、いつも施錠されている等の問題があるようですが、自治体と住民とで話し合いながら解決して欲しいと思います。

<p><b>平成30年度 活動の記録</b> (平成30年1月1日～平成30年12月31日)</p>
<p>平成31年2月22日 発行</p>
<p>編 著：特定非営利活動法人 防災ネットいわて 〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ 4-4-20 TEL:019-643-8890 FAX:019-643-8892 E-Mail: bni@eins.rnac.ne.jp URL: <a href="http://www.eins.rnac.ne.jp/~bni">http://www.eins.rnac.ne.jp/~bni</a></p>